

2号機原子炉格納容器内部調査装置に関する試料の構外分析について

- 2019年2月13日の2号機原子炉格納容器（以下PCV）内部調査で使用したガイドパイプ外表面にはX-6ペネネや格納容器内の汚染物が付着した可能性があり、引き抜き時にフロントシール内のシールリングにその付着物が濾し取られたと見られることから、当該箇所をスミアろ紙にて拭き取り、試料を採取している。
(結果は第64回廃炉・汚染水対策チーム会合（2019年3月28日）にてお知らせ済)
- 1～3号機PCV内の調査にて取得したサンプルを詳細に分析することで得られる情報は、燃料デブリの化学的特性や、デブリ分布に関する検討など廃炉に役立つ知見となると考えられる。
- 当該の試料について、**より詳細な分析を実施するため1月17日に構外の分析施設へ輸送を実施したことからお知らせする。**
- 試料について付着物の形状観察や表面の構成元素の分析を実施し、事故進展の解明や、今後本格化する燃料デブリの取り出し、輸送、分析施設に関する検討等に活用していきたい。

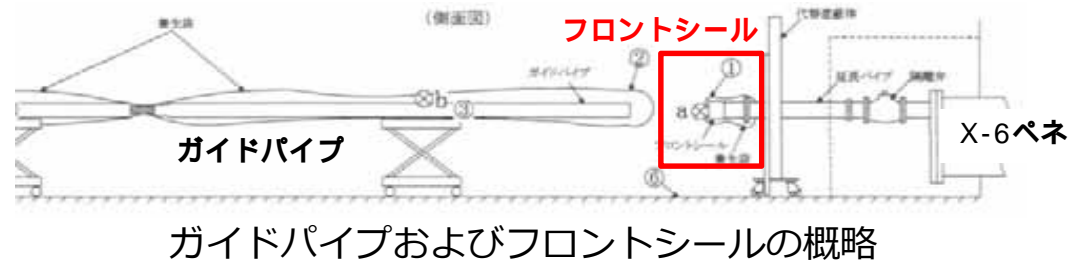
構外へ輸送した対象（スミアろ紙）



調査装置を拭き取ったスミアろ紙
フロントシール部を拭き取った
スミアから再サンプリングしたもの



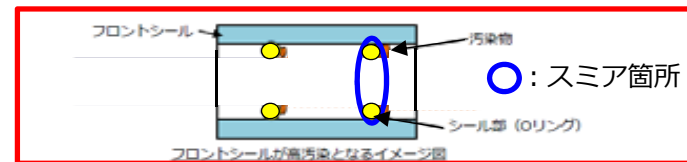
試料採取箇所



ガイドパイプ引き抜き
(内部調査後実施済み)



ガイドパイプ
引き抜き後スミア



スミアの概要